

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

鳥取県鳥取市 市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	23	対象	ド透I未訓ガ	救臨へ地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
184,557	23,839	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

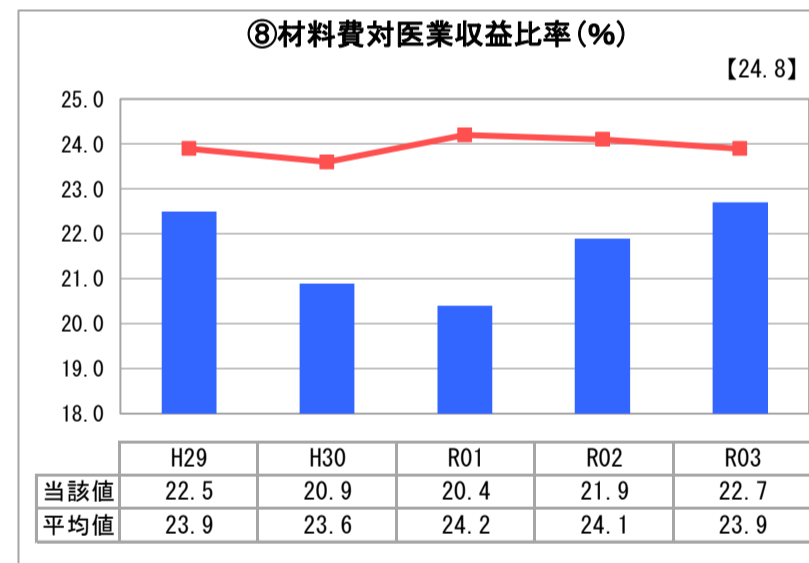
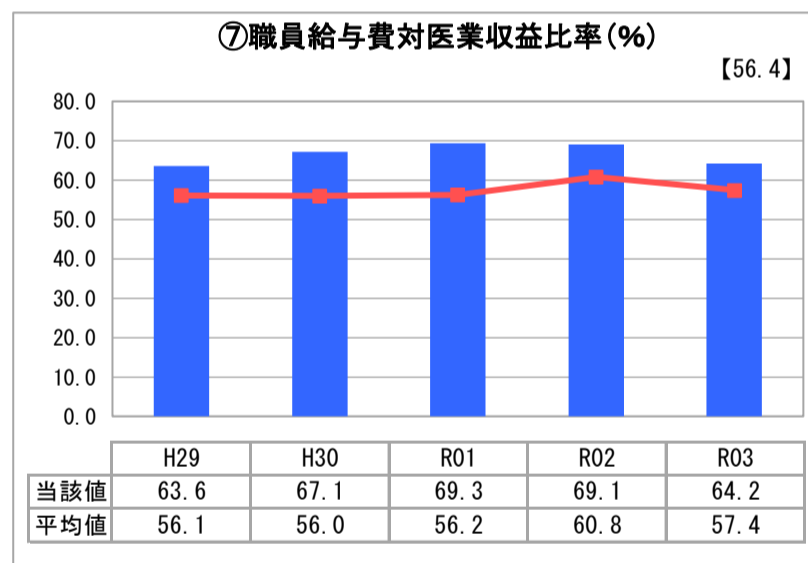
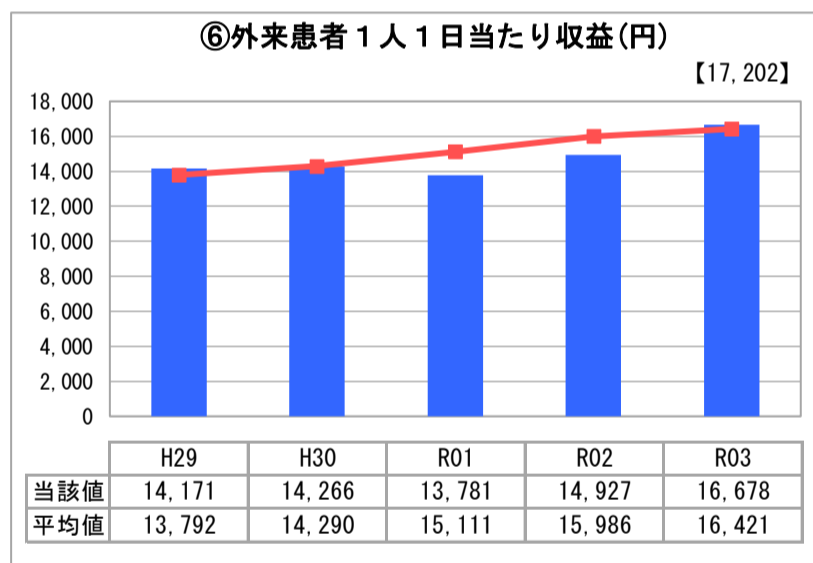
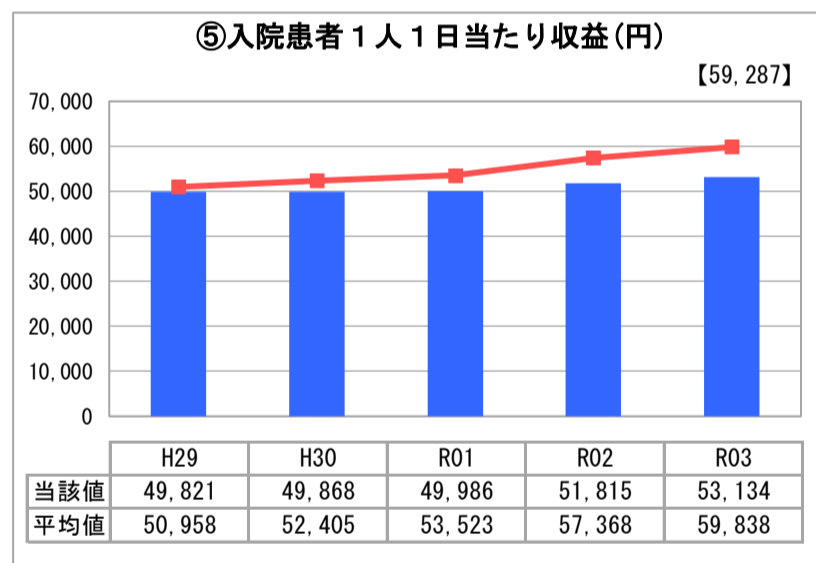
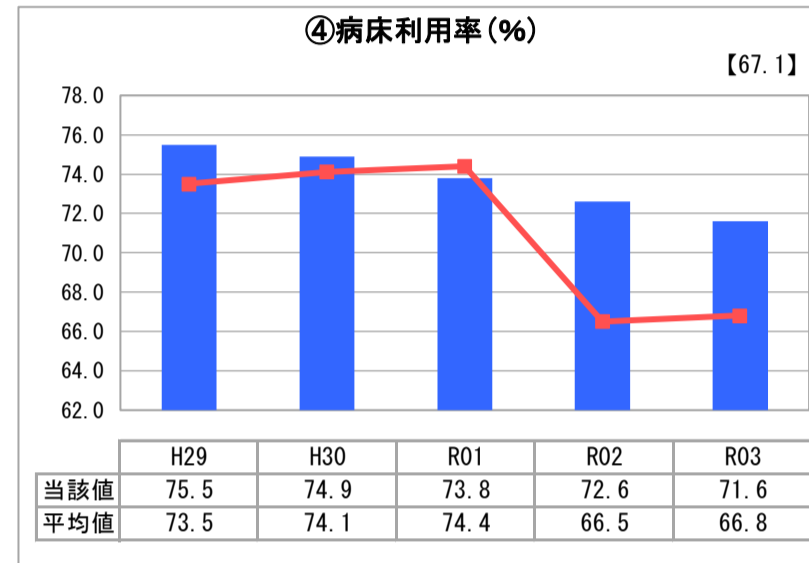
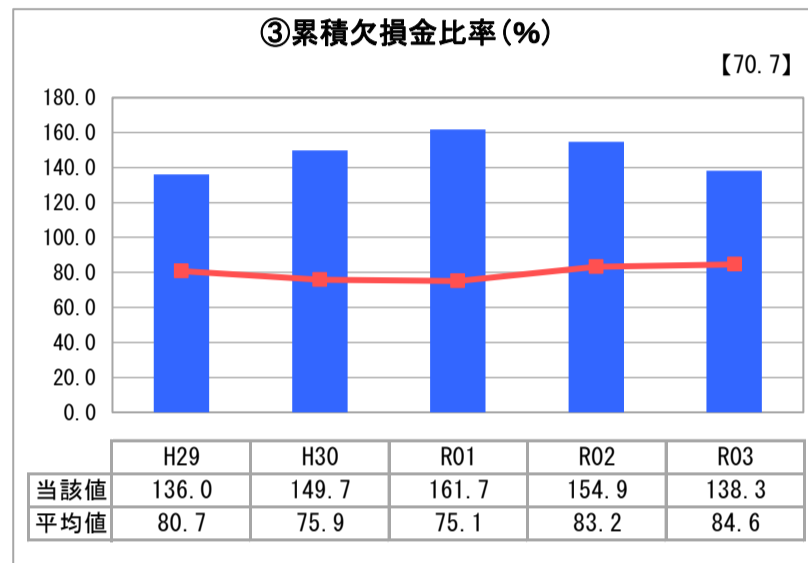
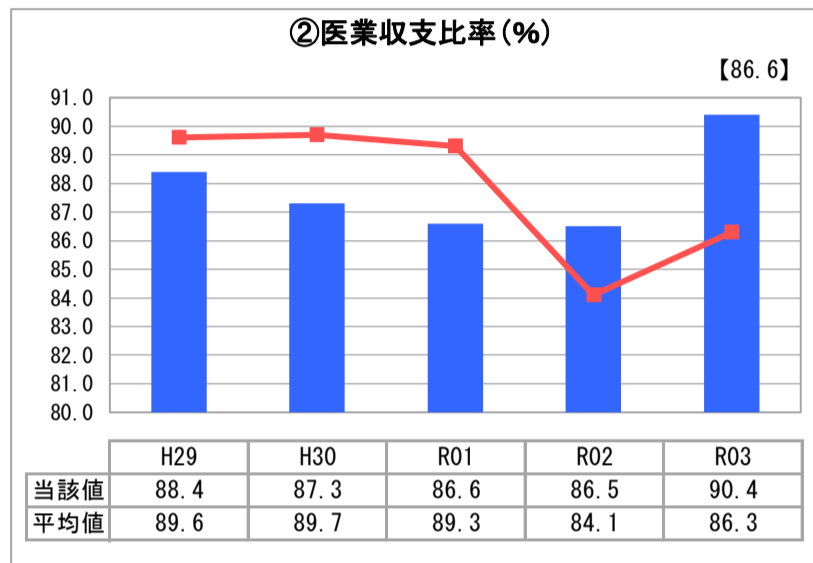
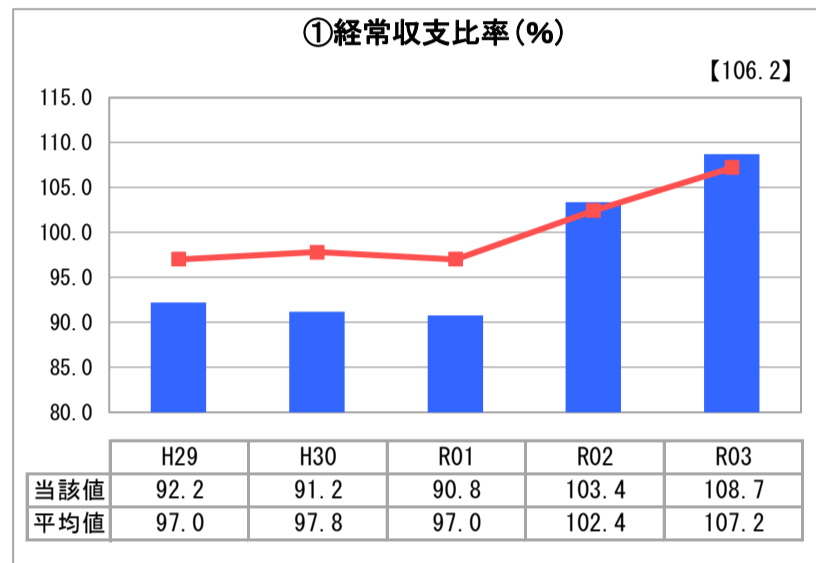
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
340	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	340
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
331	-	331

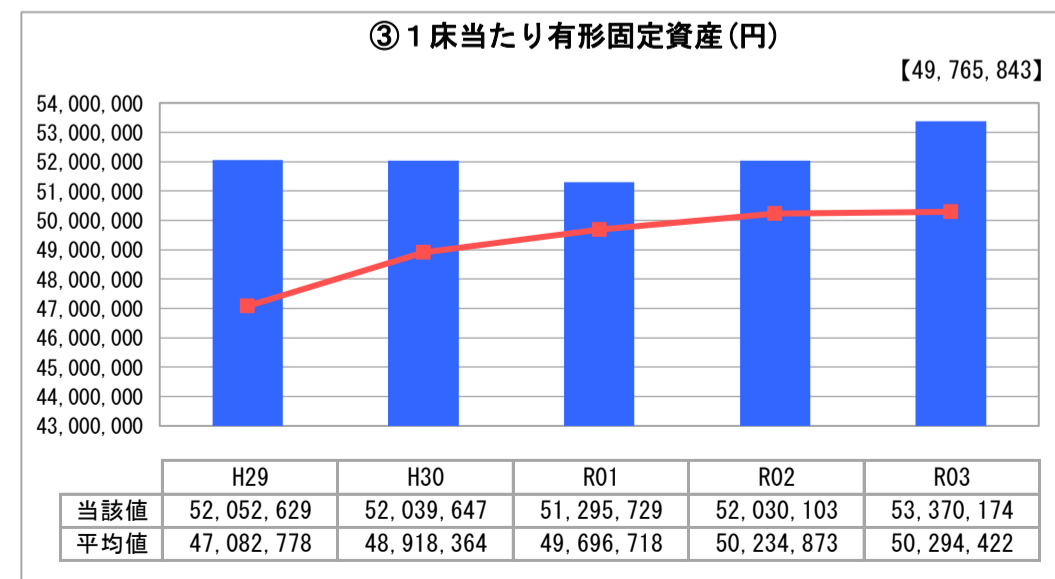
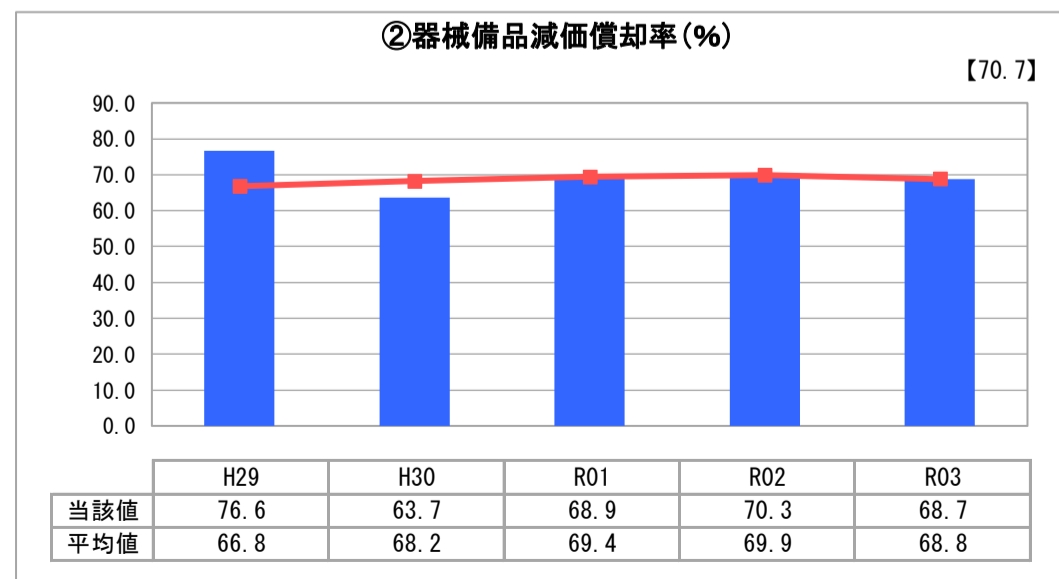
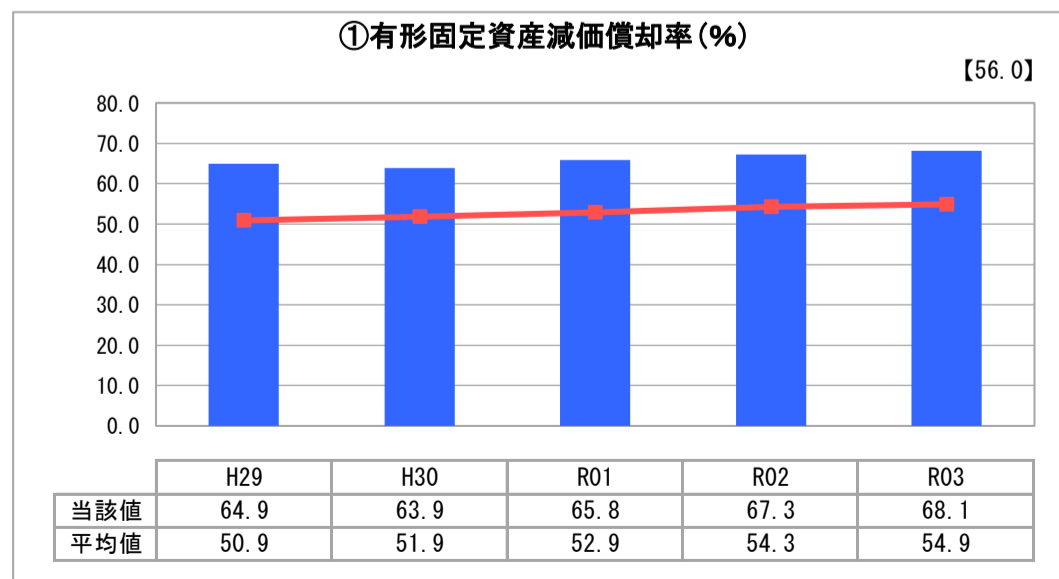
**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

## I 地域において担っている役割

鳥取県東部二次医療圏の救急指定病院として二次救急医療の重要な役割を担うとともに、臨床研修指定病院、在宅療養後方支援病院、へき地医療拠点病院、病院群輪番制病院など、地域医療を支える自治体病院としての様々な役割を果たしている。また、前年度より県から新型コロナウイルス感染症患者の受入体制確保の要請を受けており、1病棟を休止し専用病床を確保して感染者の受入を行い、新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての役割も担った。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

救急搬送の積極的な受入れを行ったほか、当院医師が開業医師を直接訪問して紹介患者の獲得に努めるなどした結果、新型コロナウイルス感染症による受診控え等による影響を受けながらもわずかな患者数減少にとどめることができ、診療単価の向上にも取り組んだことで医業収益が増加した。さらに新型コロナウイルス感染症患者対応に積極的に取り組み、国・県等の財政支援を引き続き受けることができたことにより、2年連続で黒字決算となった。

### 2. 老朽化の状況について

当院は新築移転後25年以上が経過して施設設備の老朽化が進んでおり、当年度は前年度に引き続き大規模な屋上防水改修工事を行った。また医療機器においては、前年度に補助金等を活用して新型コロナウイルス感染症患者の診療を行うための医療設備の整備に取り組んだことに加え、令和3年12月には手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、令和4年2月から泌尿器科領域の手術で利用を開始した。今後はオンライン予約・診療の構築などに着手することで、コロナ禍で見えた問題点の解決や安全で質の高い医療サービスの提供を目指す。

### 全体総括

令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策に係る国・県の補助金等による収入の増加が大きく影響して、2年連続となる経常収支黒字となった。しかし、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが未だ不透明な中で、専門医の確保、高度医療や救急医療体制の充実に加え、高齢者医療や在宅診療支援等の地域医療の確保を図りながら、経営の安定化を目指していく必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。